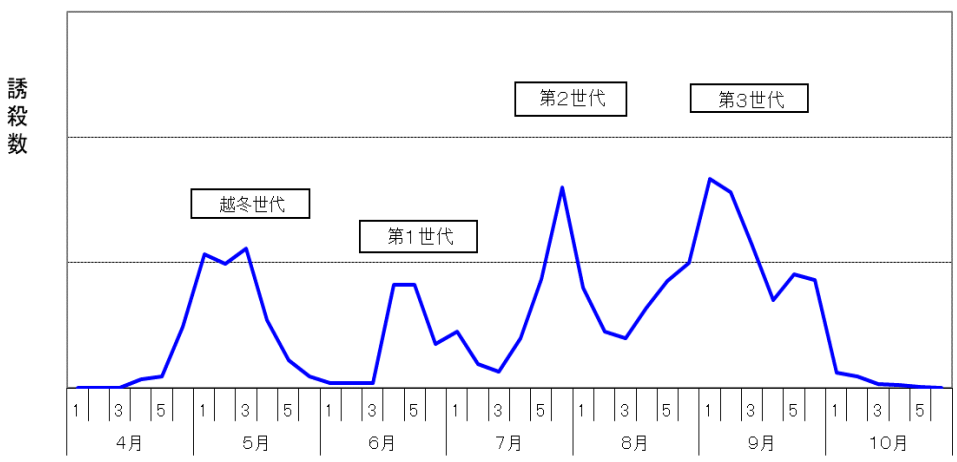
スモモヒメシンクイのフェロモントラップ誘殺消長［令和８年（2026 年）調査］

病害虫防除部

過去 10 年間の消長模式図（果樹試験場内　県予察ほ）



【発生生態と防除のポイント】

・年３～４回発生する。

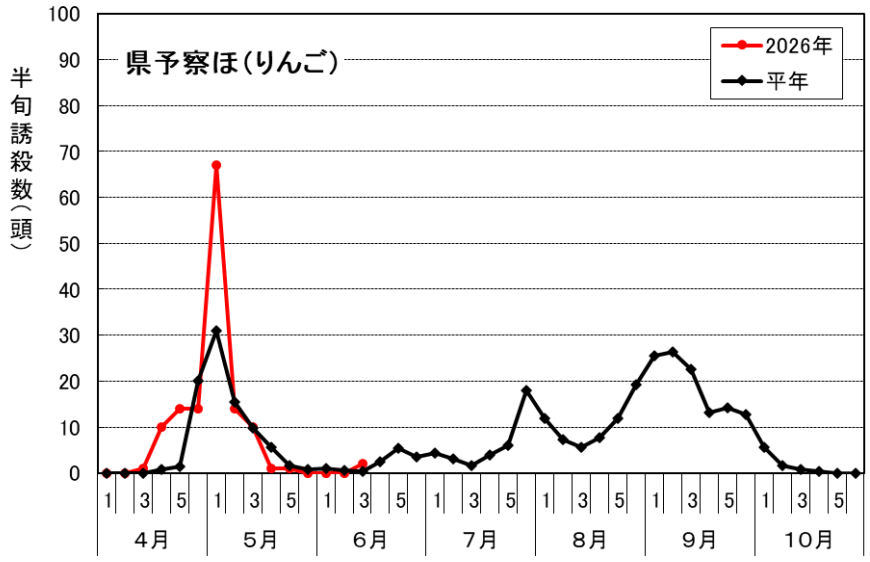
・越冬世代成虫は４月下旬～５月上旬、第１世代成虫は６月下旬～７月上旬、第２世代成虫は７月下旬～８月上旬、第３世代成虫は９月上旬に発生する。

・日本すももは、第１世代、第２世代の卵及びふ化幼虫の防除を行う。

　防除適期はそれぞれ５月上旬～６月上旬、６月下旬～７月中旬であり、10～14 日間隔で防除する。

・りんごは、第３世代の卵及びふ化幼虫を対象に、８月中旬頃から５～７日間隔で防除する。

○県予察ほ（須坂市　果樹試験場）



【調査地点】（標高約 350m）

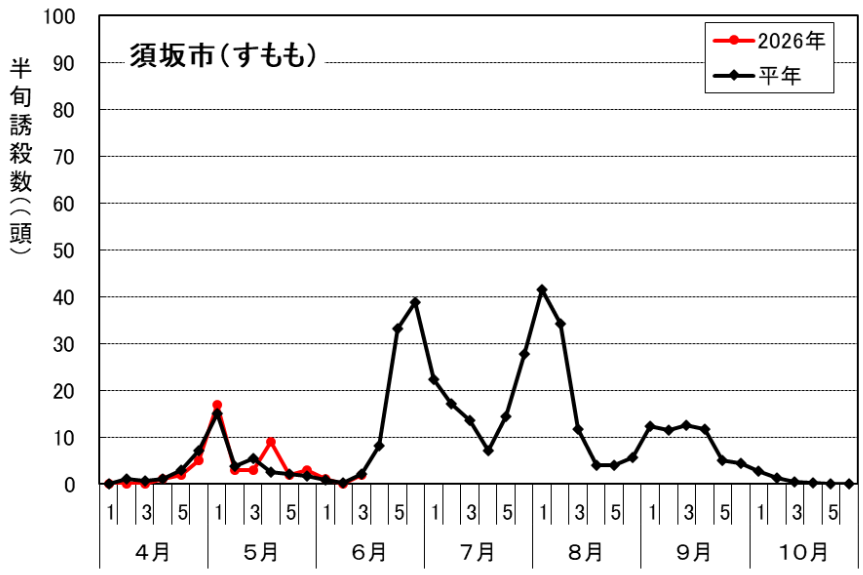
・須坂市　長野県果樹試験場（りんごほ場）

・平年は 2016 年～2025 年の平均値

【コメント】

・越冬世代成虫の誘殺ピークは平年と同じ５月第１半旬であり、ピーク時の誘殺頭数は平年の２倍強であった。越冬世代成虫の誘殺の終息も平年とほぼ同じで、５月下旬にはほぼ誘殺されなくなっている。

○須坂市（病害虫防除部）



【調査地点】（標高約 370m）

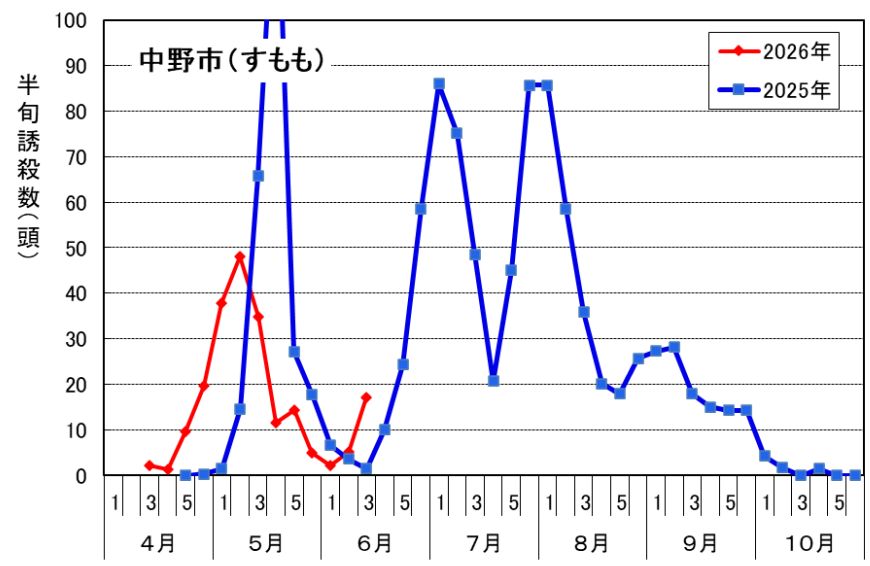
・須坂市（日本すももほ場）

・平年は 2016 年～2025 年の平均値

【コメント】

・５月第４半旬に平年よりやや多い誘殺頭数を記録した以外は、４月１日の設置以降６月第３半旬まで、ほぼ平年と同じ誘殺消長パターン、誘殺頭数となっている。

○中野市（※北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約 350m）

・中野市（日本すももほ場）

・2024 年より設置のため、平年値なし。

【コメント】

・越冬世代成虫の誘殺は前年よりやや早く始まった。誘殺ピークも前年より早かったが、ピーク時の誘殺頭数は前年の半数以下であった。

・６月第３半旬になり、明らかに誘殺頭数が増加しており、第１世代成虫の誘殺が始まったとすると、前年より２半旬ほど早くなっている。